

特別企画展

東アジア

文人の肖像

— 書画と文房具 —

螺鈿花卉文筆
中国 清時代 大和文華館蔵

藍色硝子獅子形鉛印材
中国 清時代 大和文華館蔵

PAINTING,
CALLIGRAPHY AND
STATIONERY OF
EAST ASIAN LITERATI

黄地紫彩花卉人物文簋式瓶
中国 明時代 大和文華館蔵

坐石聽松図巻部分・易治分筆 中国・清時代 黒川古文化研究所蔵

2022 2/18(金) ~ 4/3(日)

大和文華館

THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN

—— 奈良・学園前 ——

〒631-0034 奈良市学園南1-11-6 TEL (0742) 45-0544

●休館日／毎週月曜日(ただし3月21日(祝)は開館し、翌22日(火)が休館) ●開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時まで) ●入館料／一般630円／高校・大学生420円／小学・中学生無料
※20名以上の団体は相当料金の2割引で引率者1名無料※「障がい者手帳」をお持ちの方とご同伴者1名2割引

東アジア文人の肖像

—書画と文房具—

豊かな教養をもって詩書画に親しみ、自らもそれを作る人々—文人は、東アジアにおいて文化の担い手として、文学・芸術の発展を促しました。日々生まれる想いを、墨を磨り筆をとって芸術作品へと昇華させた彼等の雅趣は、書斎道具といった普段使いの品々にも反映されていきます。文人の生み出す作品、書斎に置く文房具などは、こうありたいという彼等の理想や信念を託した、彼等の肖像そのものであったといえましょう。

本展観では、12～20世紀の中国・朝鮮・日本における文人の書画、書斎道具を始めとする工芸などを一堂に展示します。また小特集として、明～清時代に流行した、文人の肖像を表す作品をご紹介します。東アジアの多彩な文人文化をご覧ください。

Our exhibit will showcase the painting, calligraphy and stationery that reflect the ways of life idealized by East Asian literati from the 12th to 20th centuries.



墨梅図冊 第12図 汪士慎筆 中国 清時代 大和文華館蔵

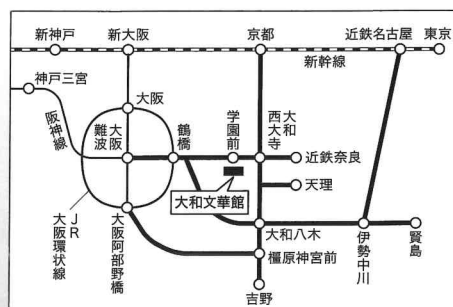


故事人物図冊 伝趙孟頫筆 中国 明時代末期～清時代初期 黒川古文化研究所蔵



龍図墨 程君房作 中国・明時代 大和文華館蔵

特別講演	3月13日(日)午後2時・講堂	「清代文人の苦楽—高鳳翰と汪士慎—」 京都国立博物館研究員 森橋 なつみ 氏
日曜美術講座	3月27日(日)午後2時・講堂	「中国の肖像表現にみる文人へのあこがれ」 当館学芸員 都甲 さやか
講座 美術の窓	3月6日(日)午後2時・講堂	連続講座「広重—風土と旅情を描く—」 第5回「広重—生涯と画業〔後編〕—東海道五拾三次以降の画業について—」 当館館長 浅野 秀剛
列品解説	毎週土曜日 午後2時 当館学芸部による	※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、スライドによる展覧会解説となる場合があります。



大和文華館

THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN

〒631-0034 奈良市学園南1-11-6
TEL (0742) 45-0544 FAX (0742) 49-2929

大和文華館 検索

@yamatobunkakan